

「朝日庄内プロジェクト」リニューアル 検討委員会（第1回）

平成21年9月24日（木）

10:00～12:00

山形大学農学部先端教育研究棟
（2階 202講義室）

次 第

- 1 開 会
- 2 東北森林管理局計画部長挨拶
- 3 出席者の紹介
- 4 議 事
 - （1）現行プログラムについて
 - （2）これまでの取り組みと課題等
 - （3）今後のスケジュールについて
 - （4）その他
- 5 閉 会

配 付 資 料

資料 1 現行プロジェクト

資料 2 現行プロジェクトのパンフレット

資料 3 これまでの取り組みと課題等

資料 4 年度ごとの実施状況

資料 5 設置要領

資料 6 スケジュール（案）

「朝日庄内プロジェクト」リニューアル
検討委員会委員名簿

(五十音順、敬称略)

氏 名	職 業 等
おお た たけし 太 田 威	尾浦の自然を守る会会長
お の であ ひろ みち 小 野 寺 弘 道	山形大学農学部教授
くわ じま せい いち 桑 嶋 誠 一	山形新聞社論説委員長
さ とう たか ゆ き 佐 藤 尚 有 亀	西川町大井沢支所長
たか はし のり お 高 橋 教 夫	山形大学農学部教授
ちよう なん あつし 長 南 厚	出羽三山の自然を守る会常任理事
み さわ えい いち 三 沢 英 一	万里の松原に親しむ会会長
やま もと ます お 山 本 益 生	鶴岡市農林水産部長

事務局

東北森林管理局

氏 名	所 属 等
平 野 均一郎	計画部長
高 橋 東	指導普及課長
吉 田 等	企画官（自然再生）
青 山 一 郎	朝日庄内森林環境保全ふれあいセンター所長
山 口 昭 雄	〃 自然再生指導官
庄 司 友 治	〃 自然再生指導官
庄 司 卓 矢	〃 自然再生指導官

関係する課及び森林管理署出席予定者

松 本 直 輝 東北森林管理局 国有林野管理課 森林利用係長
伊 東 弘 至 〃 指導普及課 企画係長
水 野 英 治 庄内森林管理署 業務課長
遠 間 正 孝 山形森林管理署 流域管理調整官
須 藤 文 雄 置賜森林管理署 署長

「モデルプロジェクト」の実施について

1 趣旨

「国民の森林」の実現を図っていくためには、公益的機能の維持増進とともに「国民参加による管理経営」を一層推進するための取組が重要です。

このような取組を通じて国民との接点を広げていくことは、国有林野事業の活性化を図っていく上からも効果的であり、また、国民の支持を得て引き続き国有林野を一元的・一体的に管理経営し、国有林野の有する多様な機能を最大限に発揮させていくという観点からも重要です。

2 モデルプロジェクトとは

このため、全ての森林管理局において、これまでに培われた経験や新たな組織等も活用しつつ、一定規模のまとまりを有する国有林野を対象に、

森林の状況や地域の要請に応じた機能タイプの配置や施業が適切に実施されている姿について、幅広い国民が総合的・体系的に理解することができるフィールドとして活用し、

そこでの森林の整備・保全や地球温暖化の防止、生物多様性の保全、自然再生、森林とのふれあい等のための取組について、多様な外部団体等の国民の参加、協力を得るとともに、

取組に当たっては、地域の要請や関係するNPOの意見等を踏まえ、地域住民や参加・協力する外部団体等との間で合意形成を図りながら協働・連携して実施する「モデルプロジェクト」に取り組み、国有林野の有する多様な機能を最大限に発揮させていくとともに、「国民の参加による管理経営」の一層の推進に資するものです。

3 進め方

全ての森林管理局において、本年度中に「モデルプロジェクト」に取り組むこととします。

取組に当たっては、地域の要請等を踏まえて外部団体等と連携して実施することとし、取組状況等について積極的に広報することとします。

また、取組状況を考慮して、外部団体等と連携したイベントや研修会等も開催します。

東北森林管理局における「モデルプロジェクト」への取り組み - 森林生態系ネットワーク保全再生モデルプロジェクト -

1 趣 旨

「国民の参加による管理経営」の一層の推進を図るため、森林や国有林に関心を持つ市民団体や地域住民等との合意形成を図りながら連携して、森林の整備・保全や地球温暖化の防止、生物多様性の保全、自然再生、森林とのふれあい等を実施する「モデルプロジェクト」に森林管理局が取り組むものです。

東北森林管理局では、これまでに8つの森林生態系保護地域をはじめとする原生的な森林生態系を維持する多くの保護林や、これらをつなぐ4つの緑の回廊を設定し、広大な森林生態系ネットワークの形成に努めてきました。

関連する保護林の面積は178千ha、緑の回廊は175千ha、合計353千haであり、これは東北森林管理局の国有林の実に20%に当たります。したがって、今後、これらの保護林を適切に保全し、緑の回廊において自然林の再生を図ることは、東北森林管理局の最重要課題となっています。

保護林の多くは自然公園と重複することから、マナーを守った適切な利用とオーバーユースが課題であり、緑の回廊においては、人工林の間伐を促進し、時間をかけて自然植生の再生を図っていくことが求められています。

これらの諸課題を解決し、実効ある保全・再生活動を行うためには、地域のNPOや関係団体等の意見を聞き、協力を得ることが不可欠となっています。

本年4月に新設された朝日庄内森林環境保全ふれあいセンターは、7万haの朝日山地森林生態系保護地域とそれに接続する鳥海朝日・飯豊吾妻緑の回廊を主な活動エリアとしており、NPOや関係団体等の活動も活発であることから、NPOや関係団体等と協力した森林生態系ネットワークの保全・再生をモデル的に実施し、その成果をもって管内全域に普及させることとします。

2 対象地域

- | | |
|----------------------------|---------------------|
| (1) 朝日山地森林生態系保護地域 | 7万ha (関東局分22千haを含む) |
| (2) 鳥海朝日・飯豊吾妻緑の回廊の一部及びその周辺 | 1万ha |
| (3) 月山植物群落保護林 | 7千ha |
| (4) 庄内海岸林 | 8百ha (高館山を含む) |

3 内容

朝日庄内森林環境保全ふれあいセンターを中心に、庄内森林管理署、山形森林管理署、置賜森林管理署と東北森林管理局が協力して、以下の事項を実施します。

(1) 朝日山地森林生態系保護地域の保全

- ア 管理委員会(1)の運営
年1～2回実施
- イ 特別モニタリング調査(2)の実施
- ウ ボランティア巡視
16年度は60名程度委嘱

- 1： 朝日山地森林生態系保護地域管理計画書に基づき、森林生態系保護地域の管理状況、特別モニタリング調査や随時発生する案件等について協議するための常設の委員会。全国で初めての試みであり、自然公園にもこの制度はない。
- 2： 同じく、森林生態系保護地域の取り扱いに役立てるため、5年間厳正に入林を規制し、森林生態系の推移について行うモニタリング。森林生態系保護地域において有識者の間で議論の分かれる入林問題の解決を目指す。森林植生と溪流魚について実施。

(2) 鳥海朝日・飯豊吾妻緑の回廊の整備

- ア モニタリング調査の実施
- イ 自然再生施業
- ウ スキー場跡地等の植生復元

(3) 庄内海岸林等の保全活動

- ア ボランティアによる松くい虫被害調査・防除への協力(被害状況の把握等)
- イ ボランティアによる被害跡地の再生
- ウ ボランティアによる森林整備(植え付け・保育等)

(4) 研究フィールドの提供等

- ア NPOが行う「ふれあいの森」造成への協力
- イ ナラ枯れ被害対策
- ウ 「やまがた公益の森」構想への協力
- エ 森林環境教育への協力
- オ 「六十里越街道歴史資源活用事業」への協力

4 地元団体等との連携

モデルプロジェクトの企画・実施に当たっては、朝日山地森林生態系保護地域管理委員会の構成メンバーを主体としたNPOや地元の関係団体等の意見を聞くとともに、ボランティアによる協力を受けるものとします。

具体的には、表-1のとおりであり、管理委員会関係は13団体、モニタリング調査の関係が4団体、朝日山地の巡視活動が6団体、鳥海朝日・飯豊吾妻緑の回廊の整備が4団体、庄内海岸林等保全活動が7団体を考えています。

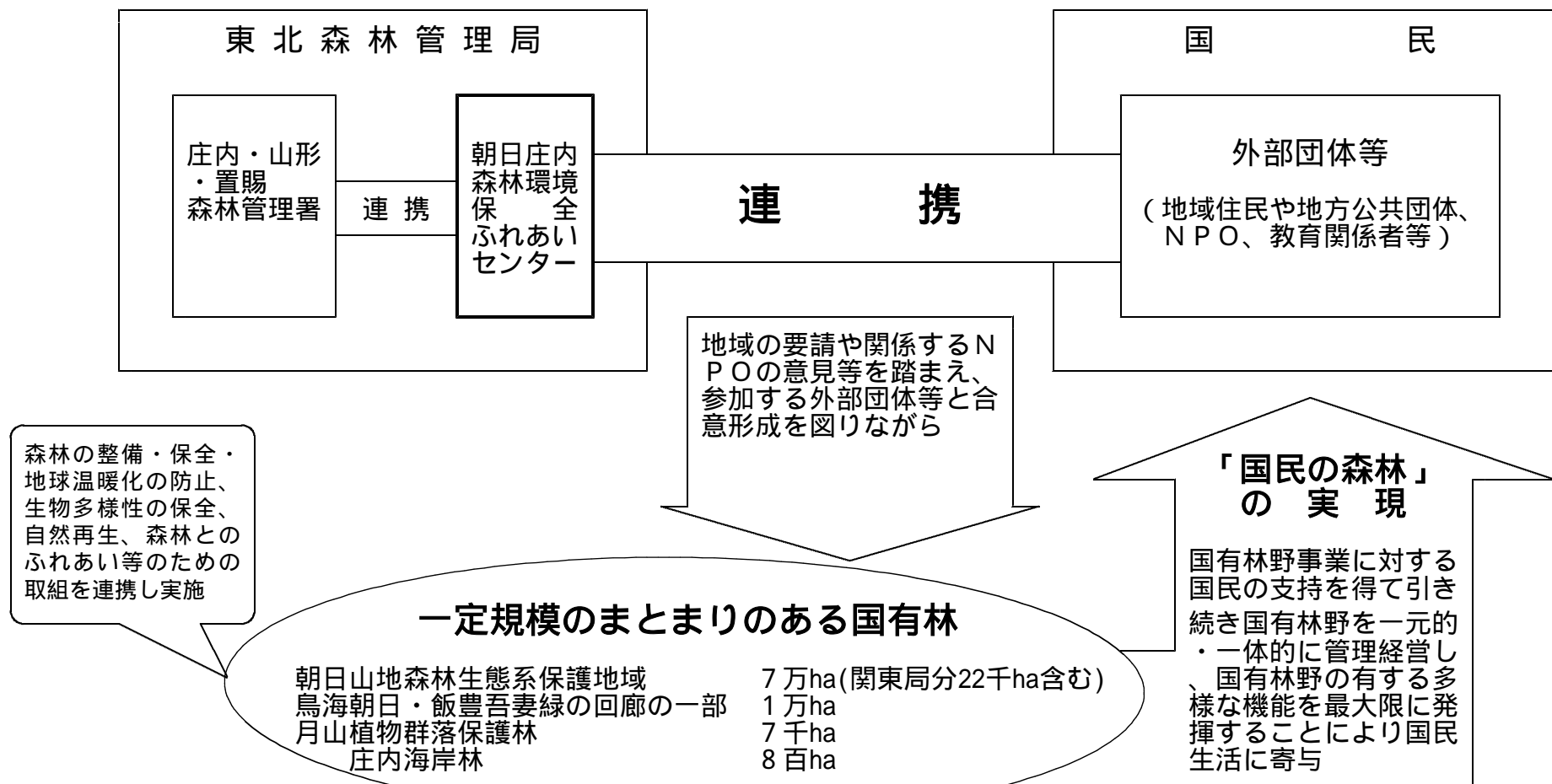
表 - 1 連携・協力する団体等

関係団体	朝日山地森林生態系保護 地域の保全			鳥海朝 日・飯豊 吾妻緑 の回廊 の整備	庄内海 岸林等 保全活 動	その他
	管理委 員会	モニタ リング 調査	巡視活 動			
山形県山岳連盟 山形県自然保護団体連絡協議会 (代表団体:出羽三山の自然を守る会) 山形県溪流釣り協議会 山形県内水面漁業協同組合 山形県猟友会 山形県西川町大井沢区 学識経験者(林学、植物学、動物学) 山形大学 山形新聞社 山形県朝日村 山形県 新潟県 環境省羽黒保護官事務所 庄内海岸のクロマツ林をたたえる会 万里の松原に親しむ会 地元市町村 東北公益文科大学 アルゴディア研究会(六十里越街道研究会)						

(参考)

モデルプロジェクト

～外部団体等と協働・連携した環境保全等への取組～



朝日庄内プロジェクト これまでの取り組みと課題等

平成 21 年 9 月 日

プロジェクト 内容	これまでの取り組み	課題と情勢変化	今後の方向(案)
1 朝日山地森林生態系保護地域の保全			
<p>管理委員会の運営</p> <p>朝日山地森林生態系保護地域管理計画書に基づき、森林生態系保護地域の管理状況、特別モニタリング調査や随時発生する案件等について協議するための常設の委員会。</p>	<p>・委員会開催(年1~2回) モニタリング調査、巡視活動、スノーモビル乗り入れ問題、ショートカット等登山道関係、標識の管理、テント設営禁止の周知等について論議され、これに基づき生態系保護地域の保全管理を行っている。</p>	<p>管理委員会での意見を踏まえて保全管理に努めているものの、一部、実施に至っていないものがある。 (例えば、植生タイプ別やプロットレスのモニタリングや、バッファ人工林の天然林誘導など)</p>	<p>今後も管理委員会の議論に基づき保全管理を実施していく。</p>
<p>特別モニタリング調査の実施</p> <p>森林生態系保護地域の取り扱いに役立てるため、5年間厳正に入林を規制し、森林生態系の推移について行うモニタリング。森林生態系保護地域において有識者間で議論の分かれる入林問題の解決を目指す。森林植生と溪流魚について実施。</p>	<p>H15から継続して毎年実施。 ・森林植生調査は、保存地区に1箇所、保全利用地域に2箇所(H17 1箇所追加)のプロットを設定し、上層木は100m×100m、下層木は20mメッシュ、下層植生は1mメッシュを単位に変化状況を把握。人為による明確な影響は確認されていない。また、山菜採取者に聞き取り調査も行っている。 ・溪流魚調査は、禁漁区、遊漁区ごとに捕獲・リリースし、体重、体長等を調査した。調査は17年度までは春、秋に、18年度以降は秋に2回行っている。</p>	<p>第1期(5年)を終え今後の方向について検討し、植生調査については、利用に着目した既存の調査を5年に一度のサイクルに変更して継続するとともに、広域的に森林植生の動態を把握する目的で新たに4箇所の調査地を追加し、5年で一巡する計画とした。また、溪流魚については引き続き同様の調査を継続することとしている。 管理委員会において、プロットレスなモニタリングなどにより広範・広域の動植物の動態把握の必要性が提言されている。 また、生態系保護地域内における生物種の網羅的なリスティングが未整備である。</p>	<p>第2期のモニタリングについて既定の手法で継続的に実施する。</p> <p>広域的な動態変化の把握を行う新たなモニタリング調査を検討すべきではないか。 森林生態系保護地域内における生物種のリスト整備を図るべきではないか。この場合、地元大学の専門家や愛好会等ボランティアの協力を広範かつシステムティックに得る仕組みの構築を検討すべきではないか。</p>
<p>ボランティア巡視</p>	<p>巡視員会議開催(年2回) 合同パトロール(年1回 3~4コース) 関東森林管理局との合同巡視員会議(H19・H20 各1回)</p>	<p>ボランティア巡視報告が必ずしも的確に行われていない。</p>	<p>引き続き巡視による森林生態系保護地域の保全・啓発を行う。 ボランティアの巡視報告体制を再整理すべきではないか。 より効果的・計画的な方法を検討すべきでないか。</p>

プロジェクト 内容	これまでの取り組み	課題と情勢変化	今後の方向（案）
2 鳥海朝日・飯豊吾妻緑の回廊の整備			
モニタリング調査の実施	センター直営としては、スキー場跡地の自然再生事業の関連で、地樹発生状況や植栽木の追跡などを実施している。回廊全体の動向を把握するモニタリングは実施していない。	局委託調査として「緑の回廊モニタリング調査」がH20年から実施されている。	当該地域は国内希少野生動植物種クマタカの生息が多いことが知られており、スキー場跡地の自然再生箇所以外のエリアについても、局委託調査を補完する形でモニタリング調査を実施し野生動物の生息状況のきめ細かな把握に努める。
自然再生施業 （緑の回廊における人工林を混交林等に誘導する施業）	実施箇所を検討したが未実施。		人工林のうち必要な箇所において、野生生物の生息環境に配慮しながら混交林化を進める施業を関係署と連携して実施することとし、具体的な実施箇所について検討すべきでないが。
スキー場跡地等の植生復元	自然再生検討会による自然再生基本構想（H18）並びに自然再生実施協議会による自然再生実施計画（H19）の策定を経て、19年度より、更新補助のための刈払いや山取苗の植栽、モニタリングなど、実施計画に基づく事業を実施している。	自然再生実施計画のうち、現状では更新困難なため植栽を実施すべきとした箇所への植樹は本年度で完了した。	自然再生実施計画に基づく事業を引き続き実施するとともに、モニタリングにより経過を十分見極め、自然再生実施協議会において今後の取り扱いにフィードバックする。

角 言

自然再生検討会	最上川スキー場跡地の自然再生の取組について検討するために東北森林管理局が設置。	
自然再生基本構想	目標とする森林、ゾーニングなどを定め、必要な作業、モニタリング、自然環境学習、実施体制などについて方向性を示した。	
自然再生実施協議会	自然再生事業を適切にかつ円滑に進めるための組織で、事業実施者、地域住民、NPO、専門家、土地の所有者、関係行政機関などを構成員とする。	これらの用語は自然再生推進法（平成14年制定）で定められたものである。 最上川スキー場跡地の自然再生については、構成メンバーや手続きなどにおいて必ずしも自然再生推進法に基づくものではないが、考え方は同法を踏襲して実施している。
自然再生実施計画	自然再生事業の具体的な実施計画で、事業の実施者が策定する。計画には事業の対象となる区域やその内容、周辺の自然環境との関係などを定めることとされている。	

プロジェクト 内容	これまでの取り組み	課題と情勢変化	今後の方向(案)
3 - 1 庄内海岸林の保全活動			
ボランティアによる松くい虫被害調査・防除への協力(被害状況の把握等)	巡視による被害状況の把握等。	ボランティアによる被害調査・防除等の動きはない。	今後も森林管理署と連携して巡視等による被害状況の把握等に努める。
ボランティアによる被害跡地の再生	庄内海岸林において保育園・学校等による松くい虫被害跡地へのクロマツ植栽・下刈りが行われており、森林環境教育と併せて指導を行っている。	マツクイムシ被害は依然として発生しているが、単木的なものに留まり、跡地再生になじむ箇所は無くなっている。	今後も、ボランティアと連携して、被害跡地の発生に心じて取り組む。
ボランティアによる森林整備(植え付け・保育等)	ボランティア団体や近隣小中高生による刈り払い・枝打ち等を指導。	「出羽庄内公益の森づくりを考える会」の機能拡充により、現在は構成機関として、学校が行うボランティア活動の指導等への参画が主となっている。	今後も引き続き「出羽庄内公益の森づくりを考える会」の構成機関としてボランティア団体の指導等に参画する。また、必要な森林整備については森林管理署やボランティア団体と連携して取り組む。
	環境美化活動(クリーン作戦):当初センターから地元自治会に働きかけて独自に実施。H20は「美しいやまがたの海」クリーンアップ運動の一環と位置づけ。	県が事務局を勤める「美しいやまがたの海プラットフォーム」が結成され、コーディネーターとして機能している。また、地域自治体等が実施主体として実績を上げてきている。	海岸のクリーンアップについては主体を「美しいやまがたの海プラットフォーム」や地域自治体に委ね、作業への参画等後方からの支援にシフトする。
3 - 2 高館山の保全活動			
ボランティアによる松くい虫被害調査・防除への協力(被害状況の把握等)	一般市民に対するナラ枯れ被害見学や防除体験等を実施。 巡視により被害状況の把握等に努めている。	被害が蔓延したため、被害調査・防除等へのボランティアの活動の機会はなくなった。 カシノナガキクイムシによるナラ枯れ以外にも広葉樹に少なからず枯損が見られ、ナラ枯れ被害材をホストに他の穿孔虫が増加している可能性も考えられることから、注視する必要がある。	今後も森林管理署と連携して巡視等による被害状況の把握等に努める。
ボランティアによる被害跡地の再生	森林整備ボランティアによる広葉樹植栽や刈出しを実施。	庄内森林管理署がH20年度より歩道の安全確保のためナラ枯れ被害木の本格的な伐倒を実施している。	新たな処理箇所の状況を把握し、必要に応じて植栽や更新補助作業等の再生事業に取り組む。
		高館山自然休養林に隣接する上池・下池のラムサール条約登録 鶴岡市が、高館山周辺を対象とした庄内自然博物館(仮称)構想を策定した。	上池下池がラムサール条約登録湿地となったことを受け、水鳥の多数渡来する冬期においても巡視を強化し鳥類の観察・記録を実施する。 鶴岡市の庄内自然博物館(仮称)構想と連携した森林環境教育を検討すべきではないか。

プロジェクト 内容	これまでの取り組み	課題と情勢変化	今後の方向(案)
4 研究フィールドの提供等			
NPOが行う「ふれあいの森」造成への協力	実施希望がなく未実施。	「ふれあいの森」造成は、制度的に森林管理署が担つものである。	要望があった場合には、窓口として速やかに森林管理署に取り次ぐとともに、事業実施に際してソフト面から支援する。
ナラ枯れ被害対策	高館山においてナラ枯れ被害見学や防除体験等を実施したほか、山形県が主宰する研修会等に参加。また、巡視により被害状況の把握等に努めた。なお、カシノナガキクイムシについてはHP等で啓発を行っている。 ----- 月山周辺で発生したウエツキブナハムシの被害状況についてHPで紹介した。	被害対策については森林管理署が山形県と連携して試験研究を実施しているが、ふれあいセンターが関わっているものはない。	今後も森林管理署と連携して巡視等による被害状況の把握等に努める。特に高館山においては、前述のとおり他の穿孔虫も注視する。 ----- 引き続き被害状況等の把握及び発信に努める。
「やまがた公益の森」構想への協力	庄内公益の森支援センター公益の森づくり部会に参加(H17) 出羽庄内公益の森づくりを考える会 H18より年3回 出羽庄内公益の森づくりを考える会の構成機関として学校が行う森林整備ボランティアの指導等に参画している。	「出羽庄内公益の森づくりを考える会」の機能拡充により、現在は構成機関として、学校が行うボランティア活動の指導等への参画している。 フィールド提供の観点では同じ構成機関である庄内森林管理署が担っている。	今後も引き続き「出羽庄内公益の森づくりを考える会」の構成機関としてボランティア団体の指導等に参画する。
森林環境教育への協力	緑の保育園：立ち上げから支援しており、H20年からは山形県緑環境税を活用した外部講師の導入等が図られている。 ----- 土湯の森：スキー場跡地の自然再生活動と合わせて学校等と連携して実施している。 ----- その他：学校やNPO等の要請に応じて適宜実施。	プログラムの企画立案や外部講師への対応等、保育園の指導者が徐々にスキルアップしてきている。 ----- 学校等との連携が円滑に進むよう、年度末に戸沢村校長会に出向き取り組みを説明し、協力を要請した。 ----- 積極的なPRが不足しているためか、具体的な要請は多くない。	引き続き実施するが、プログラムの固定化や指導者の習熟に応じて側方・後方からの支援にシフト。より広い対象への働きかけを模索する。 ----- 今後も自然再生実施計画に基づき、再生活動とリンクして実施する。 ----- 学校等に受入をPRするとともに、要請に応じて適宜実施する。
「六十里越街道歴史資源活用事業」への協力	月山ダム水源地ビジョン策定からの経緯で鶴岡市・新文化創造「森と水そして月光のしらべ」を後援。H18～H19に第一部の野外コンサートに続く第2部の「六十里越街道ブナ観察会」を担当。	「森と水そして月光のしらべ」はH20からはコンサート中心の催しにシフトしたため、現在実質的な連携はない。 旧六十里越街道整備・活用に取り組んでいるアルコディア研究会から、地すべり工事跡地の無立木地について連携して植樹したい旨の申し入れがあり現在森林管理署と調整中である。 鶴岡市が総合計画において「森林文化都市構想」を掲げる。	森林管理署との調整の上、鶴岡市の「森林文化都市構想」関連事業と連携するとともに、アルコディア研究会と連携して六十里越街道沿線の工事跡地への植樹もしくは更新補助作業に取り組む。

プロジェクト 内容	これまでの取り組み	課題と情勢変化	今後の方向（案）																				
朝日自然塾の実施	<p>朝日自然塾連絡協議会により、当センターが事務局として実施。</p> <table border="1" data-bbox="728 252 1173 536"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>計画回数</th> <th>実施回数</th> <th>参加人員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>18</td> <td>5</td> <td>3</td> <td>26</td> </tr> <tr> <td>19</td> <td>8</td> <td>6</td> <td>143</td> </tr> <tr> <td>20</td> <td>8</td> <td>4</td> <td>98</td> </tr> <tr> <td>21</td> <td>6</td> <td>3</td> <td>65</td> </tr> </tbody> </table> <p>9月現在。残2回実施予定</p>	年度	計画回数	実施回数	参加人員	18	5	3	26	19	8	6	143	20	8	4	98	21	6	3	65	<p>参加者の大半は地元で、層の広がりが限定的な一面がある。</p> <p>西川町で子供農山村プロジェクト「月山山麓かもしか学園」が開始。</p> <p>鶴岡市が総合計画において「森林文化都市構想」を掲げる。</p>	<p>朝日自然塾連絡協議会において今後も対象者のスケールアップに工夫を凝らして実施。</p> <p>仙台等都市住民の参画を得るため旅行会社との連携を検討。</p> <p>西川町で子供農山村プロジェクト「月山山麓かもしか学園」との連携を検討すべきではないか。</p> <p>鶴岡市「森林文化都市構想」との連携を検討すべきではないか。</p>
年度	計画回数	実施回数	参加人員																				
18	5	3	26																				
19	8	6	143																				
20	8	4	98																				
21	6	3	65																				

朝日自然塾とは

朝日山地森林生態系保護地域及びその周辺地域において、小中学生の親子を対象に、貴重な自然や森林の恩恵を受けている人間社会の一員として、森林や自然の働きを体感し、自然とのつきあい方を学ぶ体験活動型森林環境教育を推進するため、平成18年8月に発足しました。

朝日自然塾は、東北森林管理局と朝日山地森林生態系保護地域管理委員会の構成団体等10団体で運営しています。

「朝日自然塾」構成団体

- ・山形県山岳連盟
- ・出羽三山の自然を守る会
- ・小国の自然を守る会
- ・山形県溪流釣り協議会
- ・山形県内水面漁業協同組合連合会
- ・山形県獺友会
- ・西川町大井沢区
- ・大井沢自然博物館
- ・鶴岡市朝日庁舎
- ・東北森林管理局 朝日庄内森林環境保全ふれあいセンター(事務局)

年度ごとの実施状況

	年度	内 容
朝 日 山 地 森 林 生 態 系 保 護 地 域 の 保 全 管 理	1 6	管理委員会(5/11、2/23) 巡視員発足式(7/13) 溪流魚モニタリング調査(6/24～25)、(9/9) 合同パトロール(10/2～3)
	1 7	管理委員会(6/8) 溪流魚モニタリング調査(7/4～8)、(9/16～21) 森林植生モニタリング調査(9/16～21) 森林植生モニタリング追加予定箇所踏査(7/27,28) 合同パトロール(7/30,31) 巡視員会議(6/18、12/3) 標識の設置(7/4、8/25,28,30、9/9、10/13,17,24,31) スノーモービル実態調査(3/18,19、25,26)
	1 8	管理委員会(6/20) 溪流魚モニタリング調査(9/3～8) 森林植生モニタリング調査(9/4～6) 森林植生モニタリング追加予定箇所設定(9/7) 森林植生モニタリング追加予定箇所調査(9/8～9) 合同パトロール(7/23,29,30) 歩道(ショートカット)現地検討会(9/29) 巡視員会議(6/25、12/9) スノーモービル実態調査等(5/3,3/17,24,25)
	1 9	管理委員会(6/19、2/26) 巡視員会議(6/24、12/8) 合同パトロール(7/21、28～29) 東北・関東森林管理局合同巡視員会議(9/29～30) 森林生態系保護地域モニタリング調査(8/30～9/5) スノーモービル乗入に関する関係団体等との意見交換(7/27、12/17) スノーモービル実態調査等(4/14、5/3～4、3/22～23) 磐梯朝日国立公園朝日地域登山道ワーキンググループ(8/27、10/25、1/10、2/21、3/17)
	2 0	管理委員会(6/25) 巡視員会議(6/29、12/6) 合同パトロール(7/26～27) 東北・関東森林管理局合同巡視員会議(9/27～28) 七曲ショートカット標識設置(5/30) 山形県水産関係研究開発要望事項検討会(7/18) スノーモービル乗入に関する関係団体との意見交換(11/12) スノーモービル実態調査等(5/6、3/16～17) 磐梯朝日国立公園朝日地域登山道ワーキンググループ(5/17、7/12～13、9/6～7、9/20～23、3/6)

	年度	内 容
庄 内 海 岸 林 の 保 全 活 動	1 6	森林ボランティア活動の支援（10/31） クロマツシンポジウム(11/30.)に後援、参加 庄内海岸林の環境美化活動（12/11）
	1 7	森林ボランティア活動の支援 酒田都市公園等環境美化活動(6/25、9/24) 酒田第一中学校1年生砂防林ボランティア(7/1) 山形第四中学校2年生松林整備体験(7/6) 遊佐中学校3年生砂防林整備(9/14) 酒田工業高校1年生エコアクション(9/22) 砂防林を育てよう(11/20) 酒田中央高校3年生クロマツ林を守ろう(11/22) 遊佐町西山地区森林整備(12/4) 森林ボランティア活動 クロマツ植樹(4/14)（酒田聾学校） 浜中クロマツ林整備活動(8/27) 美化活動(クリーンアップ作戦)(10/8) クロマツ林整備活動(11/12) 「出羽庄内公益の森づくりを考える会」 （第1回:5/10、第2回:9/8、第3回:2/24） クロマツシンポジウム(11/19.)に後援、参加 酒田地区森林ボランティア関係団体連絡会議(5/17) 万里の松原交流施設完成式典(12/17) 庄内海岸のクロマツ林をたたえる会総会(2/25) ボランティアリーダー養成研修(7/24、9/3、12/10)
	1 8	森林ボランティア活動 クロマツ植樹(4/15) 庄内海岸の環境美化活動(5/13) 浜中クロマツ林整備活動(8/26) 森林ボランティア活動の支援 酒田北高校：松林整備ボランティア活動(6/14) 酒田都市公園等環境美化活動(6/24) 酒田第一中学校：クロマツ林を守る活動(7/3) 遊佐中学校：森林整備体験学習～砂防林整備活動～(9/13) 酒田工業高校：砂防林整備ボランティア活動(10/20) 「砂防林を育てよう」活動(11/12) 遊佐町西山地区森林整備ボランティア活動(12/3) 「出羽庄内公益の森づくりを考える会」 （第1回:5/15、第2回:8/31、第3回:2/26） クロマツシンポジウム(11/11)を後援 酒田地区森林ボランティア関係団体連絡会議(6/26) 万里の松原に親しむ会総会(4/15) 庄内海岸のクロマツ林をたたえる会総会(2/26)

	年度	内 容
庄 内 海 岸 林 の 保 全 活 動	1 9	森林ボランティア活動 クロマツの植樹活動(4/25) 庄内海岸林の環境美化活動(10/6) 森林ボランティア活動の支援 光ヶ丘松林整備ボランティア活動(6/23) 酒田北高校: 松林整備ボランティア活動～クロマツ林を守ろう～(6/27) 遊佐中学校: 森林整備体験学習～インターンシップinゆざ～(9/21) 「砂防林を育てよう」活動(11/10) 遊佐町西山地区森林整備ボランティア活動(12/2) 「出羽庄内公益の森づくりを考える会」 (第1回:5/23、第2回:8/27、第3回:2/15) クロマツシンポジウム(2/23) 万里の松原に親しむ会総会(4/14) 庄内海岸のクロマツ林をたたえる会総会(2/2)
	2 0	森林ボランティア活動 クロマツ林整備(下刈り)(6/3) 庄内海岸林の環境美化活動(10/4) 森林ボランティア活動の支援 山形県「森の感謝祭」(6/7) 光ヶ丘松林整備ボランティア活動(6/28、9/20) 酒田北高校: 松林整備ボランティア活動～クロマツ林を守ろう～(10/7) 酒田工業高校: 松林整備ボランティア活動(9/25、10/30) 遊佐中学校: 森林整備体験学習～インターンシップinゆざ～(10/8) 「出羽庄内公益の森づくりを考える会」(第1回:5/23、第2回:8/29、第3回:2/27) クロマツコンサート(11/1) 万里の松原に親しむ会総会(4/19) 庄内海岸のクロマツ林をたたえる会総会(2/28)

	年度	内 容
高館山自然休養林の保全活動	1 6	ナラ枯れ被害見学(11/6)
	1 7	クリーン作戦支援(6/11) 森林整備ボランティア(刈出し作業)(7/9) 環境美化活動(9/23) ナラ枯れ被害見学及び防除処理体験(10/29) パトロール(4、3月)
	1 8	森林整備ボランティア(刈出し作業)(7/22) パトロール(4、3月)
	1 9	高館山自然休養林管理運営協議会総会(6/14) パトロール(4、3月)
	2 0	高館山自然休養林管理運営協議会総会(5/8、2/17) パトロール(4、11～3月)

	年度	内 容
緑の回廊におけるモニタリング等	1 7	スキー場跡地植生調査等(8/29、10/4,13,19)) 土湯の森自然再生検討会(3/7) 列状間伐箇所調査(11/15)
	1 8	第2回土湯の森自然再生検討会(7/5) 第3回土湯の森自然再生検討会(10/24)
	1 9	土湯の森自然再生実施協議会(5/30) 土湯の森自然再生の取組 森林再生ゾーンでの更新補助作業(刈払い)(8/9) モニタリング調査(10/7) 植樹活動準備(稚樹山取り)(11/3)
	2 0	土湯の森自然再生実施協議会(5/1) 土湯の森自然再生の取組 森林再生ゾーンでの植栽作業(6/14) 森林再生ゾーンでの更新補助作業(刈払い)(8/1) モニタリング調査(10/5) 植樹活動準備(稚樹山取り)(10/25)

	年度	内 容
森林 環境 教育 の 推 進	1 6	森林倶楽部を支援 葉山登山 (16.10.16)
	1 7	森林倶楽部を支援 <ul style="list-style-type: none"> ・ 権現山の大カツラと山刀伐峠探訪(5/28) ・ 中央蔵王をまるごと堪能(10/1)
	1 8	朝日自然塾発足式(8/27) 朝日自然塾プログラムの開講(9/9,9/23,10/14,10/21,3/3) 朝日自然塾連絡協議会(11/24,25)
	1 9	朝日自然塾プログラムの開講(6回:5/19、6/9、9/1、10/6、10/20、3/1) 朝日自然塾連絡協議会(11/30～12/1) 浜中小学校クロマツ林枝打ち体験(10/16) 塩作りとクロマツ林の歴史(浜中小学校)(11/10) 木工クラフト教室(西荒瀬保育園)(2回:12/12、2/14)
	2 0	朝日自然塾プログラムの開講(4回:5/24、6/27、9/13、10/18) 朝日自然塾連絡協議会(12/12～12/13) 巣箱づくりと探鳥会(万里の松原に親しむ会)(11/8) クロマツ探検隊(西荒瀬保育園)(3回:4/17、9/10、11/17) 木工クラフト教室(西荒瀬保育園)(2回:12/15、3/18)

「朝日庄内プロジェクト」リニューアル 検討委員会設置要領

第1 趣旨

東北森林管理局においては、朝日庄内森林環境保全ふれあいセンターを平成16年4月に設置するとともに、同年には「森林生態系ネットワーク保全再生モデルプロジェクト」(以下「本プロジェクト」という。)を策定し、自然保護団体等と協働して住民参加型の活動を展開してきたところである。

しかしながら、本プロジェクトを導入してから5年が経過するなか、本プロジェクトを取り巻く情勢や本プロジェクトに対する期待も変化してきている。

このため、本プロジェクトに関わりのある学識経験者等からなる検討委員会を設置し、これまでの活動について取りまとめを行うとともに、今後の活動の指針となる「新プロジェクト」を策定するものである。

第2 検討事項

検討委員会による新プロジェクト(案)の策定

第3 検討委員会の運営

1 構成

検討委員会は、森林等に関する学識経験者、地元関係自治体、森林に関するボランティア団体等で構成する。

2 座長

本検討委員会に座長を置くこととし、互選によりこれを定める。

3 その他

- (1) 検討委員会の事務は、主に東北森林管理局指導普及課において処理する。
- (2) この要領に定めるもののほか、検討委員会の運営に関し必要な事項は、座長が検討委員会に諮って別に定める。

第4 開催期間

平成21年9月から平成22年3月までの間に3回程度開催する。

「朝日庄内プロジェクト」リニューアル検討委員会
スケジュール（案）

【スケジュールについて】

- 1 第1回検討委員会 9月24日（木）
これまでのプロジェクトの総括等
- 2 第2回検討委員会 10月下旬
新プロジェクト（案）の検討
- 3 第3回検討委員会 11月下旬
新プロジェクト（案）の策定